



## まるごと読む・エペソ人への手紙

### #1 色鉛筆を持って観察する

2020.3.23

読み込み。  
やり方 30分~1時間 × 5 分ける意味。

- 紙を印刷する
- 色えんぴつ・ライスマーカー・ふせん・フリクション
- 同じことばに色を塗る。(言ふ・聞く)
- 「かみさんめの手がかり」・元・彼。
- 切り立つところ・切れ子ところ・誤の内蔵。
- たどいたり…何度も行ったりきり
- かたまりの特徴をみていく。
- 段落分けをみていく(段落ごろ)
- 量とのバランス
- 色をつけた語はなぜか。
- 段落に仮の名まえ。
- 4分書きを基本に段落内の関係を深め。…たとえば「天と地」・「内と外」
- 4分割は階層にあつこい子
- 関係は他の物語の教訓と重複しているか。
- どんな構成か? 何章は何章(は句)。

新改2017エペソ → ディズ入門へ。

受けるときの心。  
受け取るとか。  
よいこのかいとか。

まるごと読む聖書。エペソ人への手紙です。

聖書を読む時に断片的に、この言葉いいなとか読んだり、通読しても、どこか一部の箇所を読んでいくのですね。エペソの手紙は、結婚式の時によく言われます。結構長めですよね。「妻たちよ、夫たちよ」という箇所があるのですけど、この箇所だけを読むよりは、エペソ全体の中で、「妻たちよ、夫たちよ」という教えを把握したほうが、もっと正しく深く教えられるものだと思いますので、まずまるごと読んでみようということです。

エペソの手紙は、これでいうと5ページぐらいになっています。いつぶんに食べるとお腹が壊れます。適当な大きさに切っていかないと口に入りませんので、適切な大きさに区切るということを最初にやっていかなければいけないです。区切る時には、段落と段落を区切るキーワードということがあります。「ここに愛が多いな、ここに知恵が多いな」と言うような感じですね。ですので、まず分ける前に、全体を自分で把握するためにも、同じ言葉が「ここに出てくるね、あっちにも出てくるね」ということを確かめるということから始めます。同じ言葉が出てくるという事を、色鉛筆を使って区別する。色鉛筆を使って、同じ言葉に「みこころ、みこころ」というふうに色を塗るという方法があります。色鉛筆を使う人がいます。ライスマーカーとフリクションを使っている人もいます。どれでも好きな方法で構いませんけれど、自分で見て、よく観察することですね。よく観察してまとまりを見つけていくというのが最初のことです。

例えば、ここ9節に奥義とありますけど、「奥義」が実は何回も出てきます。「この奥義は偉大です」と、こんなに離れているところにも出ていますので、全体をあっちに行ったり、こっちに行ったりしながら、慣れていかないといけないということです。大体、一日30分から1時間くらいこれを眺めて、慣れるのに1週間ぐらいかかると思います。30分から1時間を、5日間やってみると、「ここにこんな話があった、あそこにこんな話があった」ということに慣れてくるということが、最初の1週間。次に段落に分けそれを。それが次の1週間。そして、その段落の間のつながりを見て、全体のメッセージを把握する。これが3週目ということで、今回は3週間でエペソ人への手紙を読むという方法ですので、色鉛筆もしくはラインマーカーを持って始めてみてください。